

静岡県知事賞

世界に伝えたい!!魔法の言葉は Can I do something for you?

浜松市立和地小学校 五年

山里 尚音



それはとても暑い夏の日でした。私は電車に乗って家族でお出かけをしました。

ふだん電車に乗ることがない私はワクワク気分です。「何色の電車に乗るのかな?」「車掌さんの後ろの席に乗りたくないな。」と、いろんなことを考えながらのんびり歩いていました。

その時、突然お母さんが、「ママのかばん、ちょっと持ってきて。」

と言って私に荷物を渡すと、早足で階段を下りていきました。

お母さんが向かったのは大きな大きなかばんを持ったおばあさんの所でした。お母さんは、

「お荷物持ちますね。」と言ってスツとおばあさんの荷物を運びはじめました。おばあさんは一瞬びつくりしたみたいでしたが、すぐ笑顔の嬉しそうな顔になりました。

「ありがとうございます!」どういたしまして」電車に荷物をのせておばあさんとさようならしたお母さんの顔には、いっぱい汗がふき出していました。いつもよりちゃん

とお化粧をして普段は着ないワンピースとハイヒールを履いてオシャレしてたのにそんなことは全然かまひっこなしでした。

そんなお母さんを見て、私は心が落ち込みました。どうしてかという、私は手伝うどころか困っているおばあさんに気づきもしなかったからです。私はお母さんに聞きたいことがどんどんあふれてきました。

「ママの知っているおばあちゃんなの？」「いっぱい人がいたのになんでおばあちゃんに気づけたの？」「知らない人に声をかけるのは恥ずかしくないの？」「運ばなくていいよって断られたらどうするの？」

ずっと質問し続ける私にお母さんは笑って答えてくれました。「尚音ちゃんの気持ちよく分かるよ。そうだなあ、あれこれ考えてたらタイミングをのがしちゃうから、気づいた時にすぐ動くスピードとほんの少しの勇氣は必要かもね。それから…」お母さんは続けました。

「ママには魔法の呪文があるの。」

「魔法の呪文？」

魔法の呪文は Can I do something for you? (あなたのために何かできることはありませんか) という言葉でした。すぐに意味は分からなかったけど、この言葉を聞いた時なぜか心が、ほわんと温かくなっていくのを感じました。外国では困った人

がいてと声をかけるのが普通なのだを教えてくれました。

「うわーすごい!!」

世界中の皆がこの言葉を合言葉にして助けあうやさしい思いやりの世界が私の目の前に広がりました。「ありがとう。どういたしまして」がどんどん広がっていく世界。想像するだけでワクワクが止まりませんでした。

電車に乗った私は外の景色を眺めながら、Can I do something for you? という言葉を何度も何度も心の中で練習しました。親切を必要とする人がいた時誰よりも早く動くように。

